

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2018

5

No.807

P2 特集①

地域に広がる「子ども食堂」

P4 特集②

元気な地域活動を進めよう!
～地域とともに進める生活支援全県フォーラムを開催!～

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」地域での支え合い

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

人と人のつながりを大切に～「結」による心と体の居場所づくり～

P8 キラリ★社会福祉法人

社会福祉法人 神戸中央福祉会
子ども食堂「さくらカフェ」

P9 私の物語

昔と未来をつなぐ町づくり
～城下町・龍野の町並みを100年先へ引き継ぐ～
畑本 康介さん(たつの市)

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション



か東市特産の
こいのぼり「播州鯉」が
大空で泳いでいるよ!



5月5～11日は「児童福祉週間」、5月12～18日は「民生委員・児童委員活動強化週間」です。



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。





地域に広がる「子ども食堂」

「あと一歩 力になるよ その思い」

(伊藤 里空乃さん／8歳 千葉県)

これは、平成30年度の児童福祉週間(5月5日～11日)の標語で、子どもに寄り添うメッセージが込められている。

近年、子どもの貧困をはじめ、共働き・ひとり親世帯の子どもの孤立や孤食の実態に対し、地域住民が専門機関と協働しながら支援する新たな取り組みが出てきている。そのひとつが「子ども食堂」だ。

この特集では、急速に広がりを見せる子ども食堂の現状とともに、住民参加の広がりについて紹介する。



みんな一緒に集まろう(丹波市内の子ども食堂より)

急速に増える 子ども食堂

新しい子どもの居場所

子ども食堂とは、地域住民らが自発的に取り組む「子どもが一人でも安心して来られる無料又は定額の食堂」のことで、困窮・孤立しがちな子どもに目配せをしながら、地域の子どもたちを広く受け入れる。パランスのとれた食事の提供をはじめ、悩み事の相談に寄り添い、勉強をサポートするなど、子どもが安心して過ごせる環境が整えられている。

また、「地域食堂」といった呼び方で対象を子どもに限定しない場合も多く、高齢者や大人とも触れ合い交流する場になっている。



子どもも大人も一緒に団らんの時間を過ごす(尼崎市内の子ども食堂より)

全国2000カ所を超える

子ども食堂の全国的な広がりをみると、平成25年までに21カ所だったものが、平成28年7月には319カ所(朝日新聞)と増え、さらに今年4月3日には、運営者の団体「子ども食堂安心・安全向上委員会」が全国2286カ所という調査結果を発表した。県内でも4月10日の神戸新聞によると98カ所と急速に増えており、今後各市町で開設が進んでいく見込みだ。このように子ども食堂が広がる背景には次の理由が挙げられ、今後、身近な地域に根付いていくものと考えられる。

- ① 子どもの貧困、孤立や孤食の実態に対する地域住民や専門機関の問題意識の高まり
- ② 取り組みやすい活動イメージ
- ③ 開設・運営ノウハウと情報共有のネットワーク構築の進展
- ④ 子どもの貧困対策法の施行
- ⑤ 自治体や民間財団による助成事業の開始
- ⑥ 社会福祉法人の公益的な取り組みの推進など

参考文献: 室田信一「子ども食堂の現状とこれからの可能性」(月刊福祉2017年11月号P26-31)

資金やネットワークで活動を応援

子ども食堂の取り組み状況を見ると、開催頻度が週1回のところもある。会場には、公民館や集会所のほか、個人宅や福祉施設も使われている。参加者は数名から数十名と幅広く、住民主体のサロン活動と同様に実に多様だ。これら一つ一つの子ども食堂が、子どもが安心して訪れることのできる大切な居場所となっている。

このような住民が自発的に取り組む子ども食堂を応援する動きもある。開設・運営に当たっては、人材・会場・設備・食材・資金の確保とノウハウ・情報の共有が欠かせない。安全確保や危機管理の対応(保険の加入)も必要となり、準備する事項は多い。

そこで、兵庫県では平成28年度から「ふるさとびゅう」寄附金を活用して子ども食堂に応援プロジェクトを実施。子ども食堂を立ち上げる団体等に、必要な調理器具や食器、冷蔵庫などの購入費用を助成し、開設を

子ども食堂で街がつながる 住民参加の広がり

後押ししている。同様に活動資金をサポートする県内の自治体もある。また、認定NPO法人フードバンク関西では、子ども食堂への食材の提供のほか、情報の交換やノウハウの共有ができる「兵庫子ども食堂ネットワーク」を設立し、定期的な会議の開催やメールによる情報交換を行うなど、子ども食堂の持続的・安定的な運営を支えるための取り組みを進めている。

子ども食堂は、「子どもが安心して健やかに成長できる地域社会で



大学生ボランティアが学習を支援する(伊丹市内の子ども食堂より)

ありたい」と願う地域住民の新しい形の取り組みだ。子どものお腹が満たされ、人とのつながりを感じながら満面の笑顔を見せてくれるイメージは共有しやすく、地域の関係者をつないでいく。民生委員・児童委員をはじめ、まちづくり協議会や教育委員会、行政、市町社協、社会福祉法人・施設、NPO、ボランティアなど多様な主体が連携し、力を合わせて開設・運営するケースが広がっている。

中でも、これまで地域活動に関わりを持っていない地域住民が「自分ができることがあれば協力したい」という気持ちで新たに参加している点は見逃せない。食事の調理・配膳を手伝う高齢者、食材を提供する農家・商店・企業、学習支援に関わる学生や社会人活動資金の寄付者の登場など、幅広い支え合いの輪が広がり始めている。また、社会福祉法人も地域公益活動の一環として施設内のキッチンや食堂を活用しながら、地域住民や学生らと協働する事例もある(本紙P7を参照)。



子どもの笑顔が地域の輪を広げる(赤穂市内の子ども食堂より)

かけに、地域住民や専門機関・団体が連携・協働することで、住民同士の輪が広がり、子どもを受け止め、見守る地域づくりへと発展を見せている。

また、将来を見据えると、子どもが地域社会に関心を向けることで支える側になる可能性も秘めており、見守りや支え合い活動への参加につながっていくことが期待される。「あそこの食堂で一緒に食べよう」とみんなで誘い合う風景が地域に根付くこととしている。



元気な地域活動を進めよう! ～地域とともに進める 生活支援全県フォーラムを開催!～

高齢や障害があっても、誰もが地域とのつながりや役割・生きがいをもって暮らしていけるよう、県内では住民発のさまざまな見守り、交流、支え合いの活動が展開されている。また、介護予防や生活支援の観点から、地域の支え合いも含めた多様な支援の充実に向けて、その在り方について住民や関係機関が考える「協議の場」が広がっている。

この特集では、3月9日に開催した「地域とともに進める生活支援全県フォーラム」の内容を基に、住民発でみんなが生き生きと暮らせるよう、これからの地域づくりに求められる要素や、元気な地域活動を進める秘訣について探っていきたい。



これからの 地域づくりを探る

本フォーラムは、県内の支え合い活動の実践者や支援者から、その実践の報告を基に、活動が生まれ広がっていくまでの背景、成り立ちやネットワークの広がりをもとくことで、元気な活動が生まれる秘訣を探る場として開催した。

前半の講演では、全国コミュニティライフサポートセンターの池田昌弘理事長から、全国各地の地域活動の事例を交え、超高齢社会におけるこれから地域づくりと支え合い活動について提起があった。



池田 昌弘氏

いざという時に支え合える 仲間づくりの大切さ

この10年、介護予防を進めるために運動機能の訓練として体操などが推進されてきたが、「社

会性」が失われることで運動機能や栄養状態が衰える負の連鎖を生み出すということが東京大学の研究で明らかになっている。「社会性」を保つためには、日頃から見守り合いや助け合いができる仲間づくりが大切である。

特に、高齢者等のつながりを見ると、体操教室やサロン活動の後の近所の家やお店でお茶飲みやおしゃべりなどが、友人との関係を深め、お互いに支え合える関係づくりに役立っていることが分かる。

このような見守られることにつながる高齢者の暮らしが大切であり、自治会やボランティアによる福祉活動とともに、より身近な友達や近所同士の関係を深め支え合えるよう、地域づくりを進めていくことが大切である。

将来を見据えた地域づくりを

将来の人口推計から社会保障を考えると、今年生まれた子どもが42歳になる2060年頃には、65歳以上の高齢者1人

を、20歳から64歳の人たちがほぼ1人で支えることになる。家族・親戚の数も減り、地域の他人に頼らざるを得ない社会となる。今のうちから、困った時に助けてと言える友達づくりが大切であり、地域での支え合いの原体験が乏しい現代の子どもに対しては、福祉学習や地域活動への参加を通じてその経験をさせていくことが大切だ。

住民の立場から発信 「わがまちの支え合い活動」

後半は、「実践報告」として、生活支援、居場所づくり、見守り活動を行う3地域の事例を取り上げた。

事例①

明石市魚住町では、地域の資源回収活動のために有志が集まって「清水ヶ丘やってみよう会」が結成された。世話人の武久榮一氏からは、メンバーも高齢になる中で健康づくりと地域とのつながりづくりを楽しみながら進めている様子や、子どもたち

も一緒に活動を体験するなど、次世代へのつながりが垣間見える報告があった(本紙2月号P2を参照)。



武久 榮一氏

事例②

淡路市岩屋地域の生活支援拠点「つながり」では、地域の公民館の閉鎖・移転や、地域のにぎわいと居場所の減少などの状況がある中、住民座談会や学習を通じて商店街の空き店舗に新たな地域拠点を開設。誰でも気軽に集まれるよう常設にこだわり、フツのボランティアグループが持ち回りで喫茶サロンを運営している。「つながりボランティアほっと」との中田嘉代子代表と淡路市社協生活支援コーディネーターの廣田久佳氏が



中田 嘉代子氏(右) 廣田 久佳氏(左)

民が楽しく「つながり」に集まっている様子が報告された。

事例③

神戸市西区の井吹台では、阪神・淡路大震災における仮設住宅・復興住宅での見守り・交流活動をきっかけに、地域活動が本格化した。災害時要援護者の避難訓練や認知症高齢者等の地域見守り活動、「ふくし銀行」による生活支援活動など、ふれあいのまちづくり協議会や住民発のNPO法人「ニューいびき」がさまざまな支え合い活動を展開してきた。ニューいびきの坂本津留代理理事長からは、震災後の支援活動を通じて痛感した地域の高齢化への危機感が、今の活動の原動力になっていることが報告された(本紙4月号P7を参照)。



坂本 津留代氏

地域の豊かなつながりの 中での暮らしに向けて

池田氏は、矢継ぎ早に打ち出されてくる地域づくりの政策に「国に言われるからやらなければならない」と住民が振り回されている状況を生んでいないかと警鐘を鳴らし、住民自らが地域のことを考えて、国の支援の仕組みを活用していくことの重要性を確認した。

災害の経験や地域の衰退などから、地域への危機感が原動力となった各地域では、住民同士の支え合い関係や、世代を超えたつながりが着実に築かれてきている。地域に根差した暮らしへのこだわりと、将来の地域をより豊かにしたいとの思いが、元気な地域活動につながっている。



何らかの原因で家や自室に閉じこもって外に出られない「ひきこもり」や「不登校」といった問題が注目される中、そういった問題を抱えた人たちの自立を支援する仕組みが少しずつ広がってきているよ。今回は、家でも学校でもない、ほっとできる居場所を提供している取り組みを紹介するよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

社会とつながる「冒険広場遊び村」
結の設立当初は、当事者が気軽に参加できるお花見や海水浴、バーベキューなどのさまざまなイベントを通して「外に出たい、人に会いたい、また来たい」と思えるような居場所

結では、「就労や社会参加」を目的とせず、まずは「生きていくことが幸せ」と思うことを大切にしている。自分自身が幸せと思うことで、他人の幸せに寄り添うことができ、人間関係の構築につながっていく。

自らの経験からNPOを設立
篠山市にあるNPO法人結以下、「結」は、不登校やひきこもりを経験した主に30代の若者とその家族で平成17年に立ち上げた団体である。結が設立されたきっかけは、法人の代表で相談員としても活動する井上一休さんの子どもが小学生の時に不登校になったことだ。そんな時に一家を支えたのは近所に住む不登校の子どもを持つ母親たち。同じ悩みを抱えた親たちと話をすることで元氣になれたという経験が結の設立につながった。

人と人のつながりを大切に

～「結」による心と体の居場所づくり～

自分の弱みを分かち合える居場所
もう一人の相談員である渡辺さんは、自身が自宅に引きこもっていた

づくり活動を大切にして取り組んできた。しかし、これでは家でのひきこもりから居場所でのひきこもりに移行しただけで、人間関係が希薄なままではないかと井上さんは考えた。それから約9カ月かけて当事者や地域の建築組合ボランティア等と協力し、平成23年に完成させたのが「冒険広場遊び村」だ。遊び村には約50種類の手作りの遊具が並んでいて、地域の子どもや家族連れも遊ぶことができる。当事者らがスタッフとして運営や管理に関わることで社会との距離を縮めていくきっかけとなっている。



「冒険広場遊び村」の建設の様子



人気のロッククライミング

取材を終えて

結のように自分自身を受け止めてくれる居場所や環境があることはとてももうらやましいと感じました。人とつながることが恐くても、その気持ちを受け止めてくれる居場所があることが大きな心の支えになっていると思います。

特定非営利活動法人 結
篠山市東吹500番地
TEL 079-550-5296

十数年前に結の仲間と出会った。人前でどんな表情や言葉を出すことが正解なのか分からなかったという渡辺さんは、「親にイベントに連れてこられても車から降りることすらできなかった。でも、井上さんや仲間と接する中で、『失敗していいんだ、弱音を吐いていいんだ』と少しずつ素の自分を出すことができ、今は過去の自分を肯定できる」と笑う。
結では、自分を表現することが難しかった当事者が、たくさん失敗を重ね、自身の弱みを見せ合えることを大切にしている。だからこそ「冒険広場遊び村」をはじめとする結の居場所には、集う人の笑顔があふれている。

TOPICS

支え合いの地域づくりを、 みんなで進めよう

伊丹市では、3月16日(金)に東りいたみホールで『伊丹の「つどい場」のいま、そしてこれから』をテーマに地域フォーラムを開催し、約500名の市民らが参加しました。

第1部では、「もの・場所・コラボレーション・ひと」の4つをテーマに8カ所の活動を動画で紹介。サロン等の運営者と参加者が登壇し、取り組みについて実践発表を行いました。

第2部は、関西学院大学人間福祉学部の橋川健祐助教を講師に、これから求められる居場所について講演がありました。アンケートでは、「具体的な活動を知ることができ分かりやすかった」「居場所づくりが地域住民のつながりを生む大切な活動だと感じた」などの声が寄せられました。



各地の地域フォーラムに7,800名が参加! ～支え合い社会を目指す～

平成29年度に県内11カ所で開催された地域フォーラムが、合計7,800名もの参加がありました。県民、民生委員・児童委員、福祉関係者らが課題を共有し、支え合い社会に向けて協働の輪を広げています。

開催日	開催地	参加者数
7月6日	篠山市	270名
9月2日	宍粟市	300名
11月8日	宝塚市	320名
11月12日	高砂市	2,000名
11月25日	西脇市	2,700名
12月3日	佐用町	150名
12月9日	赤穂市	200名
1月27日	三田市	970名
2月3日	芦屋市	160名
3月4日	新温泉町	230名
3月16日	伊丹市	500名
合計		7,800名

寄付のお礼

3月26日、県福祉センターにおいて、(株)大正銀行および岡三アセットマネジメント(株)から「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの一層の推進に向けて、寄付金約17万円が贈呈されました。

当日の贈呈式では、(株)大正銀行の吉田雅昭代表取締役頭取、岡三アセットマネジメント(株)の綿川昌明代表取締役社長からご挨拶いただき、吉本知之代表幹事から両社に対し感謝状を贈呈しました。



両社は、「大阪・兵庫応援外国債券オープンファンド(通称:まごころ応援団)」の信託報酬の一部を財源に、平成23年度から寄付を継続しています。

推進協議会では、昨年度の寄付金を活用して全県キャンペーン啓発用の「ユートイリティバッグ」を作成し、「支え合い社会」県民フォーラムや兵庫県社会福祉大会など、多くの方が参加する場で広くPRを行いました。

本年度もキャンペーンの推進に向け、有効に活用させていただきます。厚く御礼申し上げます。

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会では、皆さまからの協賛金を受け付けています。お申し出いただく場合は、事務局(県社協企画部 TEL:078-242-4636)までご連絡ください。



このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

昔と未来をつなぐ町づくり

～城下町・龍野の町並みを100年先へ引き継ぐ～



私のモットー
今できることをひとつひとつ積み重ねていく

Personal History

平成19年 NPO法人ひと・まち・あーと設立に参加
平成26年 NPO法人ひと・まち・あーと代表理事に就任
平成27年 志高い市民の出資によるまちづくり会社・緑葉社を経営
平成28年 一般社団法人はりまのご理事に就任

はたと こうすけ
畑本 康介さん
(たつの市)

城下町・龍野の町並みを引き継いでいくためには、住民の文化を引き継ぐことが一番大切だとある人から教わりました。城下町のエリアには、約1,600世帯、約3,000人が住み、空き家が約150棟あります。「家の前を日に三度掃く」、「洗濯物を通りに干さない」など、城下町にとって当たり前のことを「サムライコードが残る町(武士の作法が生き続けている町)」として発信し、

住民の文化を引き継ぐ

平成24年に龍野城で結婚式を挙げる企画を実施しました。住民を巻き込み、晴れの日を祝うことで、城下町・龍野を大切な思い出の場所にしてもらうものです。これをきっかけに、龍野の町並み保存や空き家対策というまちの課題にコミュニティビジネスの手法を用いて取り組む覚悟を決め、龍野の中間支援NPO法人「ひと・まち・あーと」の代表理事に就任しました。

きっかけは、龍野城の「しろウエディング」

平成24年に龍野城で結婚式を挙げる企画を実施しました。住民を巻き込み、晴れの日を祝うことで、城下町・龍野を大切な思い出の場所にしてもらうものです。これをきっかけに、龍野の町並み保存や空き家対策というまちの課題にコミュニティビジネスの手法を用いて取り組む覚悟を決め、龍野の中間支援NPO法人「ひと・まち・あーと」の代表理事に就任しました。



診療所跡をリノベーションした多世代交流カフェ「旧中川邸」の外観

この暮らしに共感できる人と呼び込むことで、福祉、教育、子育てやシングルマザーの支援、買い物支援など、まちの機能を充実できないかと考えました。不動産業の起業を決意したところ、想いを同じくする先輩から、まちづくり会社「緑葉社」を引き継ぎ、空き家を管理・活用するために「市民出資型」にしました。生活を犠牲にする観光誘致はしないという姿勢に住民の理解も進みつつあります。その象徴として、昨年9月、大正時代に建築された診療所跡「旧中川邸」をリノベーションし、カフェを併設・茶道や華道の親子教室などの子ども向けイベント施設としました

城下町・龍野の町並みを100年先へ

また、地域の女性の活躍に不可欠なのが保育園。地元の事業者と相談し、複数の企業が利用できる企業主導型保育施設を運営する「一般社団法人はりまのこ」を設立しました。ここでは、子どもたちが播磨の作法をしっかりと引き継ぐ場として、「旧中川邸」を活用したいと考えています。その子どもたちが、将来、生まれ育った地域を主体的に変えていく地域の担い手になってほしいですね。



旧中川邸のカフェスペース

住民や移住者が、龍野の町並みを100年先に引き継いでいく。そして子どもたちが、播磨の文化を引き継いでいく。そのために、今できることを一つ一つ積み重ねたいと思っています。

Q2.どんな取り組みですか

A2.「さくらカフェ」は今年1月15日にオープンし、毎週水曜日に施設の食堂で実施しています。食事は施設で用意し、毎回17時半頃に職員が玄関で子どもたちを出迎えています。

参加する子どもは、小学1年生～6年生で多い時に25人ほど。食事の前には、学習支援として大学生と一緒に宿題や英語に取り組む時間があります。皆で食事をした後は、保護者が迎えに来るまでレクリエーションを楽しみます。世代間交流の目的で施設利用者も一緒に参加することもあり、核家族化で高齢者と接する機会が少ない子どもたちにとって良い機会になっているようです。

Q1.取り組みのきっかけは

A1.社会福祉士の実習でつながりのある神戸親和女子大学の教員から「子どもの貧困・孤食対策の活動を一緒にできないだろうか」という相談がきっかけです。当法人でも地域に貢献したいという思いがあり、施設を会場にした子ども食堂の開設につながりました。大学生と教員、小学校のスクールソーシャルワーカー、近隣3つのふれあいのまちづくり協議会の方がボランティアとして参加しています。

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人★

～社会福祉法人 神戸中央福祉会(神戸市)～

子ども食堂「さくらカフェ」

今回は、特別養護老人ホーム「山手さくら苑」が取り組む子ども食堂「さくらカフェ」を紹介します。施設と大学のつながりから誕生し、大学生ボランティアをはじめ、地域の関係者とも協働しながら施設機能を活用して地域の子どもの育ちを支援しています。



地域の団らんの場を提供しています



Q3.今後、どのように進めていきたいですか

A3.「さくらカフェ」の周知は、学校にチラシを配布したり、こども家庭支援センターや民生委員・児童委員などに呼び掛けをお願いしています。メディアの影響もあり「子ども食堂=貧困」のイメージが強く「うちは貧困じゃないから」と遠慮する家庭もあるようですが、広く孤食を防ぐ場としても利用していただきたいと思っています。

現状はスタートしたばかりということもあり、貧困や孤食のニーズを抱える子どもの参加については見えてきていませんが、「なんか楽しい場所がある」ということから、子どもたちが安心できる居場所となり、そこにニーズがある子どもが何人かでも来てくれたら良いと考えています。

社会福祉法人神戸中央福祉会
特別養護老人ホーム山手さくら苑
神戸市中央区下山手通7丁目1-16
TEL:078-367-3780
URL:<http://kobechuofukusikai.net/yamatesakuraen/>

試験概要

- 1 試験日 平成30年10月14日(日)午前10時から正午まで
- 2 会場(予定) 神戸大学 ほか(神戸市内)
- 3 申込書(第21回受験の手引)配布
配布開始日 平成30年5月14日(月)から
配布場所 県内各市区町の介護保険担当窓口、各県民局・県民センター(神戸県民センター除く)、健康福祉事務所、但馬長寿の郷、兵庫県高齢政策課、兵庫県社会福祉研修所
- 4 申込締切 平成30年6月15日(金)※消印有効
- 5 受付方法 兵庫県社会福祉研修所宛て簡易書留による郵送受付に限る
- 6 受験料 7,700円

※本年度より、国家資格保有者の実務経験の算定方法や、相談援助業務の厳格化など、受験要件が変わります。それに伴い、過去の受験者の提出書類の省略も認められません。受験対象となる資格や実務経験等については、くれぐれも同手引でご確認ください。

「介護支援専門員 専門研修課程Ⅱ 演習ワークブック」発行!

地域包括ケアシステムの強化に向けて、介護支援専門員の実践力の向上が一層求められる中、専門研修課程Ⅱおよび更新研修A(後期)の演習テキストを新たに発行しました。

県内各地で実践・指導経験を積み重ねてきた介護支援専門員の講師と共に開発したこのワークブックは、研修のみならず、ケアマネジメント実践を振り返り、職場内で事例研究をしたい方にも活用いただけます。

「地域でその人らしく暮らす」を支えるケアマネジメントの実践に向けて、ぜひご活用ください。

◆2,000円+税 223ページ ◆平成30年3月31日発行

◆ご購入に関する問い合わせ先:兵庫県社会福祉協議会企画部 TEL:078-242-4636



平成30年度の試験の実施にあたり、5月14日より、県内各市区町の介護保険担当窓口等で「受験の手引」の配布を開始します。受験を予定される方は、お手続きの漏れがないようご留意ください。

第21回介護支援専門員実務研修受講試験のお知らせ

中間支援活動の課題と方向性を協議

3月13日、ひょうごボランティアプラザでは、「これから」の中間支援のチャレンジに向き合う」をテーマに、「県政150周年記念 ひょうご中間支援フォーラム」を開催。県内から20団体29名が参加した。



龍谷大学政策学部准教授公益財団法人京都地域創造基金理事長の深尾昌峰氏をお招きし、これまでのひょうご中間支援団体ネットワーク意見交換会での議論(ネットワーク、連携・協働)人材育成(活動資金)や県外の取り組みを踏まえ、中間支援活動の課題

とこれからの方向性について意見交換を行った。

寄付・寄贈のお礼

3月20日、県福祉センターで、(株)ソルハホールディングスおよびクラシエホールディングス(株)から車椅子5台が寄贈された。平成24年度から継続し、累計30台となる。

今回は、尼崎市社協と淡路市社協へ各2台、伊丹市社協へ1台が贈られ、住民への貸し出しや福祉学習等に活用される。

両社は本年度、共同キャンペーンの売上の一部で車椅子を購入し、全国各地の社協へ計310台を寄贈している。



三菱電機株式会社コミュニケーション・ネットワーク製作所(所在地:尼崎市)の社員と会社の協働の寄付(三菱電機ソシオールツ基金)による福祉施設への物品寄贈の申し出があり、県社協が寄贈先の選定に協力した。

(社福)信愛学園御影乳児院が寄贈先に決定し、3月23日に贈呈式が行われた。同施設の希望を受け、急速脱臭機1台や掃除機4台に加えて、関連用品が贈られた。

川村施設長は、「乳児の健康のために、床の掃除は1日に数回必要なので、掃除機をたくさん頂けて大変有難い」と感謝を伝えた。



社会福祉事業経営相談室だより

「地域における公益的な取組」を進めていきましょう!

社会福祉法人が実施する「地域における公益的な取組」について、要件の弾力化が図られ、多様な事業実施が可能となりました(平成30年1月23日に厚労省より通知)。具体的な取り組み例が下記の通り挙げられています。

法人制度改革の趣旨を踏まえた形で、各法人の取り組み成果が問われています。

平成30年6月30日までに提出する「社会福祉法人現況報告書」において、「地域における公益的な取組」を必ず記載し、成果を発信しましょう!

【取り組み例】

- 住民の居場所(サロン)づくり、活動場所の提供等を通じた地域課題の把握や地域づくりに関する取り組み
- 住民ボランティアの育成
- 災害時に備えた地域のコミュニティづくり
- 住民に対する福祉に関する学習会や介護予防に資する講習会

経営相談室のご案内

- 相談日および相談時間
 - ①一般相談
毎週月曜・水曜・金曜 10:00~17:00
 - ②会計の専門相談(公認会計士)
毎月第1水曜 10:00~17:00
- 連絡先
TEL:078-271-1230

ひょうごボランティアプラザ NPO法人等向け助成事業の募集

県内のボランティア活動を支援するNPO等への助成事業です。

募集事業

- ①地域づくり活動NPO事業助成(助成額:上限50万円)
NPO法人等が地縁団体等と連携し、その機動力や専門性を活かした地域づくり等の取り組みに助成します。「連携を重視する事業」「先導的・先駆的取組を重視する事業」それぞれ1件ずつ(計2件まで)可能。
- ②中間支援活動助成(助成額:上限100万円)
地域のNPO等の基本的な活動を支援する取り組みや課題解決に向けた企画立案事業に助成します。

説明会

- ①5月7日(月)県立男女共同参画センター、②5月9日(水)県和田山庁舎、③5月11日(金)県姫路総合庁舎で開催します(時間はいずれも14~16時)。

募集締切

平成30年5月31日(木)必着

募集方法

申請書に記載の上、必要書類を添えて提出(郵送可) ※詳細・様式は当プラザのホームページ「プラザからのお知らせ」に掲載しています(<http://hyogo-vplaza.jp/>)。

問い合わせ

ひょうごボランティアプラザ
TEL:078-360-8845

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会

第41回「24時間テレビ」福祉車両贈呈

贈呈車・対象 ①リフト付きバス、スロープ付き自動車、福祉サポート車：社会福祉法人（社協含む）、NPO法人、地方公共団体、医療法人、（一般・公益）社団法人・財団法人、学校法人、任意団体（非法人）、ボランティア団体など
②訪問入浴車：①のうち介護保険制度の入浴事業認定団体 ③電動車いす：①の団体または身体障害者認定、要支援1・2、要介護1認定を受けている個人

締切り 平成30年5月18日（金）必着
④ ⑤ 読売テレビ「24時間テレビ」事務局
TEL 06-6947-2844

URL <https://www.ntv.co.jp/24h/>

公益財団法人大同生命厚生事業団

①ビジネスパーソンボランティア活動助成

対象 社会福祉の推進に役立つボランティア活動を行っているか、または行おうとするビジネスパーソン（会社員、団体職員、公務員、経営者・個人事業主）が80%以上のグループ（NPO法人を含む）※過去5年以内に本財団の助成を受けたグループは除く

対象活動 高齢者福祉または障害者福祉に関するボランティア活動、子ども（高校生まで）の健全な心を育てる交流ボランティア活動

②シニアボランティア活動助成

対象 社会福祉の推進に役立つボランティア活動を行っているか、または行おうとするシニア（満60歳以上）が80%以上のグループ（NPO法人を含む）※過去5年以内に本財団の助成を受けたグループは除く

対象活動 高齢者福祉または障害者福祉に関するボランティア活動、子ども（高校生まで）の健全な心を育てる交流ボランティア活動

③地域保健福祉研究助成

対象 保健所・衛生研究所等衛生関係機関に所属する職員、都道府県市町村の衛生および福祉関係職員、保健・医療・福祉の実務従事者 ※前年度

に本財団の助成を受けた人（共同研究は除く）は除く

研究課題 地域保健および福祉に関する研究、在宅・施設の医療、福祉・介護に関する研究、その他住民の健康増進に役立つ研究

助成額 ①②：1件原則10万円（①②合わせて総額900万円以内）※特に内容が優れている活動については20万円を限度に助成 ③：1件原則30万円（総額1,100万円以内）※特に優秀な研究については50万円を限度に助成

締切り 平成30年5月25日（金）消印有効
④ ⑤ 公益財団法人大同生命厚生事業団
TEL 06-6447-7101

URL <http://www.daido-life-welfare.or.jp/index.htm>

公益財団法人コープともしび

ボランティア振興財団

第2回「やさしさにありがとう

ひょうごプロジェクト」助成

賛同企業と共に社会的課題を新しい手法で解決しようとしている意欲あふれる市民団体を支援します。

対象 兵庫県内で公益的な活動を行うNPO法人、ボランティアグループ、一般社団法人

助成額 1団体上限50万円（総額140万円を予定）

締切り 平成30年6月8日（金）17:00必着
④ ⑤ 公益財団法人コープともしびボランティア振興財団
TEL 078-412-3930

URL <http://www.tomoshibi-found.or.jp/>

募集

兵庫県健康福祉部障害福祉局 平成30年度「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」

対象 ユニバーサル社会づくりの見本となる率先した活動を行っており、兵庫県内に在住または活動拠点を置く個人、団体、企業 ※自薦・他薦は問わない

締切り 平成30年5月25日（金）
④ ⑤ 兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課
TEL 078-362-4379

URL <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/universal/shakaidukuri.html>

読売新聞社

第12回よみうり子育て応援団対象

対象 子育てに関連した実践活動に取り組んでいる国内の民間グループや団体
※活動年数やメンバー数は問わない

表彰 大賞：賞金200万円、奨励賞：賞金100万円、選考委員特別賞：賞金20万円

締切り 平成30年6月8日（金）必着

④ ⑤ よみうり子育て応援団大賞事務局
TEL 06-6881-7228

URL <https://info.yomiuri.co.jp/index.html>

行事予定

5月 1日 老人福祉施設新任職員研修Aコース
◆県社会福祉研修所

7日・9日・11日 ひょうごボランティア基金助成事業説明会
◆県立男女共同参画センターほか

7日・29日 チーム・マネジメントリーダー研修Aコース
◆県社会福祉研修所ほか

10日 福祉行政機関新任職員研修
◆県社会福祉研修所

15日 県経営協総会・記念講演会
◆神戸メリケンパークオリエンタルホテル

生活福祉資金新任担当職員研修会
◆県福祉センター

17日 県地域包括・在宅介護支援センター協議会 新任職員研修会
◆県福祉センター

23日 障害福祉施設新任職員研修Aコース
◆県社会福祉研修所

24日 老人福祉施設新任職員研修Bコース
◆姫路商工会議所

25日 県社協監事監査
◆県福祉センター

6月 8日 県社協第254回理事会
◆県福祉センター

11日 保育所新任保育士研修（全2コース）
◆県社会福祉研修所

13日 障害福祉施設新任職員研修Bコース
◆県社会福祉研修所

15日 生活保護新任ケースワーカー研修
◆県社会福祉研修所

25日 県社協第194回評議員会（定時評議員会）
◆県福祉センター

第1回社会福祉政策委員会
◆県福祉センター

株式会社 あまの創健

健康管理・健康管理用品・環境衛生

- 医薬品・計量器具・健康増進器材の販売
- 栄養・運動等のコンサル業務
- 健康管理事業の企画、実施
- 工業薬品・脱臭剤の販売

家庭用常備
薬品等の斡旋



女性のみ
巡回型健診



AMANO GROUP

- 株式会社アマノ
●アマノドラッグチェーン他
- 天野エンザイム株式会社
●医薬用・食品・工業用酵素剤の製造販売
- 天野商事株式会社
●天野チェーン発売元

〒541-0059
大阪市中央区博労町2-6-7サン・システム心斎橋ビル9F
TEL (06) 6251-0990